

No.12 多発している地山、岩石 - 崩壊・倒壊の死亡災害事例（2019年）

2019年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者規模
2	8 ～ 10	事業場敷地内の雨水等貯留用のコンクリート製沈殿槽から隣接する同社管理の農地へ農業用水を配水するにあたり私有農道に塩ビ製配管を約150m敷設する作業中、被災者は深さ1.9m、幅0.8m、長さ約12mにわたって掘削した溝内で床均し作業等を行っていたところ、掘削溝の側壁が長さ5.8m、高さ1.8mにわたって崩壊し、埋まったもの。	11709	711	5	1～9
10	12 ～ 14	山砂採取場にて、斜面高さ60メートル上部で掘削して下方に落とすことにより堆積した山砂をドラグ・ショベルでダンプトラックに積み込んでいたところ、斜面上に堆積していた山砂が崩壊してドラグ・ショベルとダンプトラックが埋まり、ドラグ・ショベルの運転手が死亡した。	20202	711	5	10～ 29
3	2 ～ 4	道路工事のうちトンネル工事現場において、坑口から約85m掘削した切羽で一次コンクリートを吹付後、上半の支保工建込準備のため、測量及び路面の整地を行っていたところ、鏡面左肩部から1回目の崩落により被災者の下半身が下敷きになり、さらに2回目の崩落が発生した。	30102	711	5	30～ 49
6	10 ～ 12	擁壁築造のための基礎コンクリート打設を行うため、高さ約6mの地山の基底部をドラグショベルですかし掘りしたところ崩壊し、全身が生き埋めとなったもの。	30109	711	5	1～9
	10	汚水管（直径20cm、長さ4m）を敷設するために、地山の掘削、汚水管の据え付け、埋設等、一連の作業を3人1組で行ってい				

2	~ 12	た。汚水管を2本目まで敷設し、地上のマンホール周辺を地固めしていたところ、被災者が掘削面（地上から1.6m）に立ち入った瞬間にボックスカルバート付近の土砂が剥離崩壊し、土砂に埋もれ死亡に至った。	30109	711	5	1~9
12	~ 14	下水道工事現場の掘削溝内（幅0.95m、深さ1.6m）で土止め支保工の軽量鋼矢板の設置準備のため、被災者と同僚1人が溝内に降りて準備しているところに、側壁が崩落（高さ1m、幅2.8m、奥行き0.73m程度）し、被災者の身体全体が崩落土砂に埋もれたもの。	30110	711	5	1~9
10	~ 18	農業用水路配管（塩ビ管、L=5m、Φ250mm）を布設するため、ドラグショベルで、溝（H=2.7m×L=3m、W=1m、勾配75~78度）を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行っていたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	30110	711	5	10~ 29
10	~ 18	農業用水路配管（塩ビ管、L=5m、Φ250mm）を布設するため、ドラグショベルで、溝（H=2.7m×L=3m、W=1m、勾配75~78度）を掘削し、労働者2名が掘削溝の底でスコップで床均し、計測を行っていたところ、当該配管を埋めるために堆積していた左岸の掘削土と掘削面の一部が崩壊し、当該作業を行っていた労働者2名が生き埋めとなった。	30110	711	5	10~ 29
4	~ 10	排水管のレベル調整のため、床掘りを2名で行っていた。被災者がクワで作業を行っていたところ、掘削面（深さ約1.7m）の最大奥行き約0.6m、幅約4.7mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土砂に埋もれたもの	30110	711	5	10~ 29
3	~ 10	被災者は、水道管布設工事のため、深さ約1.5mの掘削した溝の中で計測作業に従事していたところ、埋設されていたコンクリート擁壁（高さ約1.05m、長さ1.17m、幅約0.51m：重量	30110	711	5	1~9

	12	830kg)が突然倒壊し、壁との間に挟まれて死亡した。				
10	14 ～ 16	管水路工事現場において掘削構内でのマンホール据え付け作業中に法面の一部が肌落ちし、労働者の下半身が埋まって被災したもの。被災労働者は被災当初左脛部の複雑骨折、骨盤の骨折の症状であったが集中治療室に入っており、容態が急変した結果死亡したもの。	30199	711	5	10～ 29
10	12 ～ 14	井戸掘削のため、直径15cm深さ150mのボーリング予定のうち75mまで掘削したところで、地中に入れたボーリングロッドを一旦引き抜いてレールに搬出し休憩に入ろうとした。その時、ボーリングマシンを設置していた箇所の約5m四方の地盤が4m程真下に陥没したため、作業員2名と事業主が、地盤とともに落下して土砂に埋もれ、作業員1名の窒息による死亡が約1時間半後に確認された。	30199	711	5	1～9
1	8 ～ 10	宅地造成現場において、ドラグショベルで掘削された幅約1.2m、深さ約1.9mの溝の中に入り、汚水管の設置作業を行っていたところ法面が崩壊、逃げようとしたが腰部分まで土砂で埋まり、同僚に助け出され病院に運ばれたがその後死亡したもの。	30199	711	5	1～9
11	12 ～ 14	共同住宅建設現場における建物基礎部の地山掘削作業に関連し、幅約150cm、深さ約180cmである掘削底においてケレン棒を使用して土止め壁に付着した土砂の除去作業を行っていたところ、背後の地山が長さ約2m30cmにわたり崩壊し、腰部まで埋まったもの。	30201	711	5	1～9
4	10 ～ 12	事業場敷地内北西部の牛舎横において、配水管敷設のため、ドラグショベルを使用して掘削作業を行っていたところ、掘削法面（高さ2.4m）の地山が崩壊し、作業員2名が生き埋めとなったもの。そのうち1名が死亡したもの。	70101	711	5	1～9
	14	被災者は、事務所の観測所の定期的保守点検を行うため、同僚2名と川沿を徒歩で1列縦隊となって移動していた。そして、観測所の				30～

11	～	ある左岸側の沢まで到達し、その沢を先に同僚2名が登りきり、最	80209	711	5	49
16		後に被災者がそこを登っていたところ、沢が崩壊し、落下してきた 岩（大きさ約1 m～2 mで2個と推定）に体を挟まれたもの。				
7	～	遺跡発掘調査のため、床掘りを3名で行っていた。被災者が手掘り				1000
16		スコップで作業を行っていたところ、掘削面（深さ約2.3 m）の 最大奥行約0.9 m、幅約6.3 mの土砂が垂直に剥離崩壊し、土 砂に埋もれたもの。崩壊前の掘削面の勾配は目測でほぼ垂直であっ た。	160101	711	5	～ 9999

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_36.html